

この建築材料等品質性能表は、特記仕様書記載の材料の品質、性能、試験方法を詳細に示したものである。									
章	項目	品質 性能 試験方法							
		b. 上部取り付け形の動体検出形は、150mm/secの速度で、検出範囲に近づけたとき確実に作動すること。 c. 上部取り付け形の静止体検出形は、50mm/secの速度で、検出範囲に近づけたとき、確実に作動すること。 注) 取り付け位置などにより、上記によりがたい場合は、当該センサーに適した方法の試験を行い確実に作動することを確認する。 ＜試験条件＞ (1) 無目付センサー又は天井付センサーの検出体及び検出範囲試験は、JIS A1551の7. 6による。 (2) 熱線スイッチ……被検出体表面温度、33±2℃とし、周辺温度は、被検出体表面温度より5℃±2℃低い値とする。 (3) 超音波スイッチ…温度-10℃、湿度75%、風速10m/secとする。 (4) 試験室の状態は、JIS Z 8703「試験場所の標準状態」の常温、常湿による。 (3) 放射射ノイズ 放射無線周波電磁界ノイズ試験とする。(ただし、電界強度は一定とする。)							
		＜自閉式上吊り引戸装置＞ (試験方法) (1) 耐久性(開閉繰り返し)試験 閉については外力によらず、試験体の自閉装置及び制御装置のみにより戸を開端位置から開端位置までの作動を確認できる試験を行う。 同試験に用いる試験体は片引戸とし、開口内法有効高さ2,000mm、幅は最大寸法とする。適用戸総質量の区分毎に試験を行う。自閉装置、制御装置は10万回以上の時点で1回のみ調整を行えるものとし、また、その他の制御装置についてはメーカーの耐久性試験成績書において2万回以上の耐久性を確認することで、試験に代えることができるものとする。 (2) 耐衝撃性試験 落下高さ17cmにて、ドアの中央部にドアが外れる方向に衝撃を与える。 耐衝撃性試験に用いる試験体は片引戸、開口内法有効寸法は高さ2,000mm、幅900mmとする。 適用戸総質量の区分毎に試験を行う。 (3) 気密性試験 JIS A1516「建具の気密性試験方法」による。							
6 内装 改修 工事	モルタル塗り	＜防水剤＞ (品質・性能)							
		防水剤の種類	建築用のモルタルに用いるセメント防水剤						
		混合割合	セメント重量の5%以下						
		凝結及び安定性	(凝結) JIS R5201「モルタルの物理試験方法」の8の規定によって行う。 (安定性) JIS R5201「モルタルの物理試験方法」の9の規定によって行い、収縮性、膨張性のひび割れ及びそりについて観察する。						
		曲げ及び圧縮強度比	70%以上						
		吸水比	95%以下						
		透水比	80%以下						
		(試験方法) JIS A1404「建築用セメント防水剤の試験方法」による。ただし、透水試験における水圧は、294.0kPaとし1時間行う。							
	タイル張り	＜既製調合モルタル＞ (品質・性能)							
		項目	品質・性能						
		保水率	70. 0%以上						
		単位容積質量	1. 8kg/l以上						
		接着強さ	標準時 0. 6N/mm <sup>2</sup> 以上 温冷繰り返し 0. 4N/mm <sup>2</sup> 以上						
		長さ変化率	0. 2%以下						
		曲げ強さ	4. 0N/mm <sup>2</sup> 以上						
		(試験方法) (1) 試料の調製 製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。 練り混ぜは、JIS R5201「モルタルの物理試験方法」の9. 1に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。 (2) 保水率の試験方法 JIS R3202「フロー板ガラス及び磨き板ガラス」に規定するみがき板ガラス(縦150mm、横150mm、厚さ5mm)の上にJIS P3801「ろ紙(化学分析用)」に規定する5Aろ紙(直径11cm)をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく(内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm)を設置し、(1)で調製した試料を金べらで平滑に詰込む。その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下逆さにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをバースを用いて、1mmの単位まで測定する。試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。 保水率=50/ 平均値×100 (注)50:リング型わくの径(mm) (3) 単位容積質量の試験方法 JIS A1171「フロー・マゼンタモルタルの試験方法」に準ずる。 (4) 接着強さ(標準時)の試験方法 イ) 適用タイルが「セラ・イタイル」の場合 (試験体の作製) JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書B(規定)及び推奨仕様B-1に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに(1)で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A5209「陶磁器質タイル」に規定する外装壁セラ・イタイルで乾式成形のⅠ類(施ゆう)150角ユニットタイル(外のり寸法約300mm×300mm)を圧着する。 その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿気養生を行い、これを試験体とする。(試験方法) JIS A6909「建築用仕上塗材」の7. 9接着強さ試験に準じて行う。試験体をダクトノックを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、モルタル樹脂接着剤で鋼製フックノットを接着し、引張試験機を用いて接着強さ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。(全てが0. 6N/mm <sup>2</sup> 以上) ロ) 適用タイルが「小口タイル・二丁掛けタイル」の場合 (試験体の作製) JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書B(規定)及び推奨仕様B-1に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに(1)で調製した試料を厚さ7mmになるよう塗付ける。直ちにJIS A5209「陶磁器質タイル」に規定する外装壁セラ・イタイルで乾式成形のⅠ類(施ゆう)「小口タイル108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。 その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿気養生を行い、これを試験体とする。(試験方法)「セラ・イタイル」の場合と同様に行う。							
		(5) 接着強さ(温冷繰返し後)の試験方法 (試験体の作製)「セラ・イタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々(4)接着強さ(標準時)の試験方法の「試験体」と同様とする。 (温冷繰返し試験)「セラ・イタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A6909「建築用仕上塗材」の7. 10温冷繰返し試験に準じて行う。 試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに-20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±2℃の別の恒温器中で3時間加温し、この24時間を1サイクルとする操作を10回繰返しした後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び膨れの有無を目視によって調べる。 (温冷繰返し後の接着強さ試験方法)「セラ・イタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。(全てが0. 4[N/mm <sup>2</sup> ]以上) (6) 長さ変化率の試験方法 JIS A6203「セメント混和用ポリマー・エポキシ及び再乳化形粉末樹脂」9. 9長さ変化率に準ずる。 (7) 曲げ強さの試験方法 JIS A6916「建築用下地調整塗材」7. 11曲げ強さ試験に準ずる。 試験室の状態: 試験室は、温度20±2℃、湿度65±10%とする。 ＜既製調合目地材＞ (品質・性能)							
		項目	品質・性能						
		保水率	30. 0%以上						
		長さ変化率	0. 2%以下(収縮)						
		吸水量	50g以下						
		単位容積質量	1. 8kg/l以上						
		(試験方法) (1) 試験の条件 試験室は、温度20±2℃、湿度65±5% RHの標準状態とする。また、試験に使用する材料、器具などを、予め24時間以上標準状態に置いた後使用する。 (2) 試料の調整 正味質量と標準練り上がり量より、1. 0～1. 2%の試料を練り上げるのに要する材料に相当する量を計算して用意し、さらに標準加水量より用意した材料に相当する量の練り混ぜ水を計算して用意する。 練り混ぜは、JIS R5201「モルタルの物理試験方法」10. 1に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し3分間練り混ぜて資料とする。 (3) 保水性(ろ紙法) JIS R3202「フロー板ガラス及び磨板ガラス」に規定する磨き板ガラス(縦200mm、横200mm、厚さ5mm)の上にJIS P3801「ろ紙(化学分析用)」に規定する5Aろ紙(直径18. 5mm)をのせ、その中央部に真鍮製リング型枠(内径50mm、厚さ3mm)を設置し、2)で練り混ぜた試料を金べらで平滑に詰め込む。その後、直ちにリング型枠上部にガラス板を当てて上下逆さにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。10分後にろ紙へにじみだした水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをバースを用いて1mmまで測定する。試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。 保水率(%)=50/ 平均値×100 (注)50:リング型わくの径(mm) (4) 単位容積質量 (2)で練り混ぜた試料を、JIS A 1171「フロー・マゼンタモルタルの試験方法」の6. 3に規定する方法で求める。 (5) 長さ変化率 (2)で調整した試料を用いてJIS A 1171の7. 6長さ変化率試験に従って行う。 (6) 吸水量 吸水量を求める。試験体数は3個とし、その平均値とする。							
		＜現場発泡断熱材＞ (品質・性能)							
		項目	品質・性能						
		難燃性	下記のいずれかによっていること (1) JIS A1321「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃2級表面加熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること。 (2) 法定準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している発熱性試験(コynaリー試験)に適合していること。 発熱性 準不燃材料試験の加熱時間は10分、難燃材料試験の加熱時間は5分において次の(1)～(3)に適合していること。 (1) 総発熱量が8MJ/m <sup>2</sup> 以下であること。 (2) 防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。 (3) 最高発熱速度が、10秒以上継続して200kW/m <sup>2</sup> を超えないこと。						
		(試験方法) (1) 原液試験(原液粘土試験) JIS K7117-1「17℃ラテックス液状、乳濁状又は分散状の樹脂-ブロックフィルム」形回転粘度計による見掛け粘度の測定方法」による。 (2) 発泡品試験 1) 試料の作成は、JIS A9526「建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォーム」の6. 2. 1)による。 2) 試料の状態調節は、JIS A9526の6. 2. 2)による。また、試験片の作成はJIS A9526の6. 2. 3)による。 3) 試験片の状態調節及び試験場所は、JIS A9526の6. 2. 4)による。 (3) 圧縮強さ試験 JIS A9526の6. 2. 5)により、測定はJIS K7220「硬質発泡ラテックス圧縮特性の求め方」による。 (4) 熱伝導率試験 JIS A9526の6. 2. 6)により、JIS A1412-1「熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法-第1部:保護熱板法(GHP法)」又はJIS A1412-2「熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法-第2部:熱流計法(HFM法)」によって、平均温度(23±2)℃、高温板と低温板の温度差(25±5)℃で熱伝導を測定する。 (5) 接着強さ試験 JIS A9526の6. 2. 7)による。 (6) 透湿率試験 JIS A9526の6. 2. 8)により、測定はJIS A1324「建築材料の透湿性測定方法」又はJIS K7225「硬質発泡ラテックス水蒸気透過性の求め方」による。 (7) 難燃性の表面加熱試験 JIS A1321に規定する試験方法に準じる。 (8) 発熱性試験 建築基準法に基づく指定性能評価機関が準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している試験方法に準じる。							
		＜屋上緑化軽量システム＞ (品質・性能)							
		項目	品質・性能						
		透水層、排水層等構成材の主要材質	合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるものであること。 (保水層を有する場合は、保水層共)						
		透水層	目詰まりにより植物の生育に支障を生じることがなく、補え込み用水を流出させない構造であること。						
		排水層	植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び補込み土壌を支え、流出しない構造をもつこと。						
		排水層の鉛直方向の排水性能	240l/m <sup>2</sup> ・h以上						
		耐荷重性能	一般歩行時の上部歩行に際し破壊しないこと。						
		排水層の許容圧縮強度	3. 0×10 <sup>-4</sup> N/mm <sup>2</sup> 以上の載荷重で破壊・有害なひずみなど異常のないこと。(保水層を有する場合は保水層共)						
		耐根層	重ね合わせ部を含め、メザチ等地下差伸長力の強い植物に対して3年以上の耐根性能を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性のあるものであること。						
		防水層保護層	材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根層を保護するものであること。但し、防水層が防水層保護層と同等の性能を有すると認められる場合は省略することができるものとする。						
		(試験方法) (1) ヒジジは、JIS A1510-2「建築用7金物の試験方法-第2部:7用金物」に規定する試験による。 (2) 戸当りの衝撃試験は、JIS A1510-2に規定する試験による。							
		移動間仕切							
		＜移動間仕切＞ (品質・性能及び試験方法) (1) ハ・ホ(表面材、心材、フレーム材、幅木、笠木及び再補強材)及びハ・ホ-レベルは、JIS A6512「可動間仕切」の表9又はこれらと同等以上の品質性能を有し、かつ、接触腐食をおこさないもの又は防食処理を施したものとする。 (2) ハ・ホは、JIS A6512「可動間仕切」の5. a) ～c) による。 (3) ハ・ホの操作性 ハ・ホ操作の初動力は98N以下とする。 (4) ハ・ホ圧接装置の耐久性 ハ・ホ圧接装置の固定・解除は、7, 500回の繰返し耐久試験において異常のないものとする。 (5) 耐衝撃性 ハ・ホ圧接装置の耐久性試験後、質量50Kgにおける衝撃試験において構造部材の折れ、曲りの異常がなく表面の、割れ、はがれがないものとする。また、接点・接床部が外れないこと及び多少のずれを生じても圧接装置を復旧し、走行可能なものとする。 (6) レールの耐久性 レールは普通ハ・ホで乗り車2個が通過する部分を1m以上とし、その通過回数が30, 000回以上で異常のないものとする。 (7) 乗り車の耐久性 乗り車は、走行距離60kmで操作性に異常がなく、レールに大きな変形がないものとする。 (8) 乗り車の引張り強度 一本にかかる荷重の15倍以上の引張り強度があるものとする。 (9) 遮音性能 遮音性試験はJIS A6512「可動間仕切」8. 2遮音性試験に準ずる。 (10) 化学物質を放散する資材 JIS A6512「可動間仕切」7材料による。							
		トイレ・レール							
		＜トイレ・レール＞ (品質・性能) (1) ハ・ホ 項目 品質・性能 表面材 ハ・ホ樹脂系、ハ・ホ樹脂系化粧板又はハ・ホ樹脂系単一材とする。 裏打材 JIS A6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、防食処理及び防錆処理を施した材料とする。ただし、ハ・ホ樹脂系単一材の場合は適用しない。 心材 JIS A6512「可動間仕切」の表9に対応する材質とする。ただし、ハ・ホ樹脂系単一材の場合は適用しない。 枠材 JIS A6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、垂鉛めっき処理を施した材料とする。 エッジ材 小口 防水処理を施す。 (2) 構造金物 項目 品質・性能 笠木 JIS A6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、耐蝕性のあるものとする。 脚部(脚具、幅木) 頭つなぎ等で使用するハ・ホ類の材質はステンレス製とする。 壁見切り金物 頭つなぎ等 (3) 付属金物 項目 品質・性能 ヒジジ 耐蝕性のあるものとする。 ラッチセット 戸当り 腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施してあるものとする。 戸当り部のゴムは、使用に十分耐える材質であるものとする。 (4) 外観は、JIS A6512「可動間仕切」の5. b) による。 (5) ハ・ホ表面材の耐薬品性・耐汚染性・耐ひたつき性・開閉耐久性 項目 耐薬品性及び耐汚染性 耐ひたつき性 開閉耐久性 ハ・ホ樹脂系化粧板及びハ・ホ樹脂系単一材 JIS K6902「熱硬化性樹脂高圧化粧板試験方法」15. 2 B法の表1に示された耐汚染性のうち材料番号3. 6. 7. 8. 9. 10. 17. の試験結果の判定は、「変化なし」であるものとする。また、材料番号1. 2. 4. 5. 11. 12. 13. 14. 15. 18. は、「変化なし又は軽微な変化」であるものとする。又は、これらと同等以上の性能を有するものであるものとする。 底圧ハ・ホ樹脂系化粧板 ハ・ホ樹脂系加工化粧板、ハ・ホ樹脂系化粧板							